

ほっかいどう

# かいはつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.41

2005 季刊



北海道開発グラフ

通巻第四十一号 二〇〇五年(平成十七年)三月

監修 北海道開発局広報室

発行 財団法人北海道開発協会

〒001-0001 札幌市北区北11条西2丁目 セントラル札幌ビル  
011-7009511 FAX 011-7009515

## 開発の日々のひとコマ



大夕張ダムと二股発電所(写真右下)

### 二股発電所

大夕張ダムの建設(p16、17参照)には、農業用水の確保のほかに、水力発電という目的がありました。二股発電所は、大夕張ダムの水の落差を利用して発電する施設で、北海道(企業局)と三菱鉱業株式会社(現三菱マテリアル株式会社)の共同出資により、大夕張ダムと並行して建設され、昭和35年12月に完成しました。

北海道の管理のもと、長年にわたって貴重な電力を供給してきましたが、現在建設中の夕張シューパロダム完成時には廃止される予定です。その後は、最大出力で二股発電所の1.8倍となる新発電所が、その役割を引き継ぐこととなります。

### 春霞と船泊港(礼文町)

寒風厳しい冬が終わり、穏やかな春の季節を迎えた船泊港。霞の向こうには、湾を挟んで対岸の山々がうっすらと見えます。

船泊港は、離島観光で有名な礼文島北部の湾内に位置します。地域の水産基地として、また、砂利・石材などの搬入拠点として、重要な役割を担っています。

### 開発カレンダー 2005年4月～6月

( )内は開催地

- 4月1日～6月30日 春季における都市緑化推進運動
- 4月20日 滝野すずらん丘陵公園 春の開園(札幌市)
- 4月29日 滝野すずらん丘陵公園無料開園日(札幌市)
- 5月5日 滝野すずらん丘陵公園無料開園日 ※小中学生のみ(札幌市)
- 6月上旬 農業農村整備事業写真展(札幌市 札幌第1合同庁舎1階南側玄関ホール)
- 6月18日 平成17年度石狩川水防公開演習(当別町 当別川19線橋下流右岸河川敷)
- 6月18日 滝野すずらん丘陵公園無料開園日(札幌市)  
※春季における都市緑化推進運動にちなみ
- 6月中旬 平成17年度第1回環境セミナー(札幌市 札幌第1合同庁舎)
- 6月下旬～7月上旬 防災パネル展 胆振海岸・樽前山(苫小牧市 苫小牧市役所)

## 特集・今、「出前講座」がおもしろい!

事業紹介/石狩湾新港  
多目的国際ターミナル整備事業

しごと最前線/みんなから親しまれるダム湖に  
育ってほしい

開発事業のあゆみ/南空知農業の水がめ「大夕張ダム」の建設

ピックアップ/各地で道路の開通続々と  
豊かな自然の恵みを生かした農山漁村の活動を表彰

ちょっとひととき...道の駅/道北の道の駅

北国賦/風になる時間

〜カイトフォトグラファー〜 林 範明さん



「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。



# 1. 出前講座ってなに?

出前講座のメニュー数は約200(平成17年3月の時点)。北海道の各地で行っている事業の内容に対応して、様々なものを用意しています。

**豊富なメニューを用意  
分かりやすく説明します**

「出前講座」は、このような疑問を解消し、北海道開発局をもっと身近に感じてもらうため、担当の職員が講師となって、皆さんのもとへ「講座」を「出前」するものです。この取組は、平成16年度からスタートしました。

北海道開発局では、皆さんの生活の周辺で様々な事業を行っています。その一方で、皆さんは、「北海道開発局の名前は知っているけれど、どんな仕事をしているんだろう?」「道路、河川、港、農地、官庁施設などいろいろな工事を行っているようだけど、何のためなんだろう?」などと、疑問に思っていることがあるのではないのでしょうか。

## 出前講座とは

北海道開発局では、皆さんの生活の周辺で様々な事業を行っています。

受講者の年齢に応じた適切な講座を選んでもらえるように、「総合的な学習の時間」にも活用できるような、小・中学生、高校生向けの講座もあります。

どの講座でも、分からないことがあればその場で尋ねることができ、講師ができるだけ分かりやすくお答えします。

## ナマの声を お聞かせください

「出前講座」は、北海道開発局の職員にとっても、皆さんが普段から私たちの仕事でどのように見ているのか、またどのように感じているのかについて、ナマの声を聞くことができる大切な機会です。ぜひ、「出前講座」をご利用ください。そして、いろいろな疑問や興味を聞かせてください。

「出前講座」で寄せられる皆さんの声の一つ一つが、私たちが仕事を進める上での貴重な資料となります。

次の見開きでは平成16年度に実施した「出前講座」の中から二つの事例を紹介します

### 豊富なメニューを用意しています

出前講座のメニューは、地域ごとの事業や、受講者の年齢層に対応して、全部で200以上あります。ここでは、その一部を紹介します。



#### 河川生態系調査

魚類等の調査により河川の多様な環境について現地講習します。

(主な対象) 全年齢層  
(出前範囲) 夕張川  
(開講期間) 夏期



#### 施設見学

(維持除雪機械及び情報管理室)

日勝峠を管理している維持除雪機械と情報管理室の見学ができます。

(主な対象) 全年齢層  
(出前範囲) 日高道路総合事業所  
(開講期間) 5月~10月



#### 函館港の役割

函館港の役割(函館港の歴史、港と町のかかわりなど)について説明します。

(主な対象) 小学生(4年~6年)  
(出前範囲) 函館市周辺  
(開講期間) 6月~3月



#### 釧路空港について

釧路空港の歴史、施設の種類、利用状況などを分かりやすく説明します。

(主な対象) 小・中学生  
(出前範囲) 釧路・根室支庁管内  
(開講期間) 6月~2月



#### 農業農村整備事業 現地視察見学

農業農村整備で整理された事業の紹介や施設の説明を分かりやすく現地で行います。

(主な対象) 小学生以上  
(出前範囲) 網走支庁管内  
(開講期間) 5月~10月



#### 「たてもの」ができるまで

予算要求から、敷地選定、設計・積算、工事開始、工事完成、評価までの一連のプロセスを分かりやすく紹介します。

(主な対象) 小学生(高学年)以上  
(出前範囲) 全道  
(開講期間) 年中

このほか、

- ダム・砂防・漁港・防災
- 都市・住宅行政とまちづくり
- 北海道開発局の保有機械
- 北海道開発局の環境保全
- 道路・河川の電気通信設備
- 除雪機械の開発

などをテーマとした講座メニューも用意しています。



北海道開発局の事業や施策についてもっと知っていただくため担当の職員が講師となって皆さんのもとへ講座を出前する「出前講座」。もっと広く利用していただけるようにその取組内容と申込方法について紹介します。

このページの写真  
伊達市立伊達中学校1年生の皆さんと平成16年10月25日に建設中の三豊トンネル(仮称。虻田町所在)で有珠復旧事務所が行った出前講座の様子



1. 出前講座ってなに?
2. こんな出前を行っています
3. 申込方法





講座では、プロジェクターに写真や図を示しながら、紋別港の歴史と役割について解説しました

紋別港の歴史と役割を知っていただくための講座を出前しました

平成16年8月、網走開発建設部に紋別ロータリークラブから、出前講座「オホーツクの港・新発見『紋別港の役割』」

の申込みがありました。紋別ロータリークラブは、紋別市で主に教育活動に関する奉仕活動を行っている団体で、地元の方について勉強するために、この講座を希望したとのことでした。

これを受けて、9月17日、網走開発建設部築港課の職員を会場の紋別経済センターに派遣。プロジェクターを用いて図表や写真を示しながら、35名を対象に出前講座を行いました。

講座では、始めに紋別港の歴史について紹介。江戸時代に松前藩によって漁場が設けられたこと、大正時代には滑り台を使ってケーンソンを海に浮かべ防波堤を建設していたことなど、これまでの港のありゆみについて話しました。

続いて、紋別港の役割について解説。海外から運ばれてくる石炭、消費地に送り出される水産物に代表される貨物の取扱状況など、港の物流機能について話しました。また、クリオネプロムナードなど親水施設や流水砕氷船「ガリンコ」号の利用状況を示しながら、港の親水機能や観光との

## 2. こんな出前を行っています



水の中の生き物を捕まえる子どもたち



比布町立中央小学校4年生の皆さん



捕まえた生き物を熱心に調べる様子。トビケラの仲間やドジョウ、ミズカマキリなどを見つけました

川とふれあいながら水の「きれい」について学んでもらいました

平成16年8月、比布町立中央小学校から旭川開発建設部に、出前講座「水生生物調査」の申込みがありました。同小生では、総合的な学習の時間の中で、子どもたちが川の環境について調べており、「実際に川に行って調査し、より理解を深めたい」という目的で、本講座を希望したとのことでした。

これを受けて、旭川河川事務所から職員を派遣。9月22日に永山新川、10月5日に石狩川で、それぞれ2時間ずつ、4年生27名を対象に出前講座を行いました。

講座は、子どもたちに水質調査と水生生物調査に実際に取り組んでもらう内容で、職員はその手助けと調査結果の解説を行いました。

水質調査では、パックテストやリトマス試験紙といった簡単な器具を使って、水に溶けた酸素や有機物質などの濃さと、酸性・アルカリ性の度合いを調べ、水質を判定して

もらいました。また、水生生物調査では、川岸や川の中の石に張り付いている生き物を実際に捕まえ、見つかった生き物の種類によって、水のきれい・きたないが分かることを学んでもらいました。

中には初めて川に入った子どももいましたが、みんなとても興味深い様子で調査に取り組んでいました。特に、水生生物調査では、生き物を捕まえるたびに歓声が上がり、楽しそうな様子でした。

講座終了後、「川をきれいにするには、どのようなことに気を付ければよいですか」との質問があり、職員が「家

で水を使うときに油をそのまま流さない、水を無駄にしないなどのことに、一人一人が取り組みましょう」と答えました。また、「同じ川の中でも調査する場所によって、水質や水の中の生き物が違ってることがよく分かった」などの感想が寄せられました。

派遣された職員は、「子どもたちの反応がとても良くて驚きました。説明時に専門用語をそのまま使ってしまったのが反省点です。今後は、誰が聞いても分かりやすい表現ができるよう心掛けたいですね」と、講座を振り返りました。

### 環境に関心を持つきっかけになった



比布町立中央小学校教諭 佐藤 直子さん

「石狩川の水生生物調査の出前講座をします」。そんな新聞記事が目にとまって、早速、電話で申し込みました。子どもたちはちょうど社会科で上下水道を勉強していて、比布の水道水に石狩川の水が

使用されていることを調べていましたので、興味津々でした。中でも、水中昆虫を探したり、大きな網で魚をすくったりするのが特に楽しかったようです。川で捕まえたスジエビは教室に持ち帰ってみんなで育てたんですよ。

楽しみながら生きた勉強ができるこの講座は、身近な環境に関心を持つきっかけになったと思います。ほかの川も調べてみたいと子どもたちは意欲的です。私自身も、職員の方に専門知識を分かりやすく教えてもらって勉強になりました。また利用させていただきたいです。

### 地域のこれからを考えていく参考に



紋別ロータリークラブ 太田 豊さん

講師の上田さんは、昨年紋別港に寄港した大型旅客船のことも話されていました。私も見に行ったのですが、あれは素晴らしいです。水深12m岸壁を整備したことで寄港が可能になったのです。

港の観光面での話は、地域の活性化にも関係するので興味深かったです。また、紋別港からの積荷で、紋別の水を積み込んで移出していることを初めて知りました。それだけ紋別の水はおいしいですね。

私が所属するロータリークラブでは、自分たちが知らない分野を学べるこのような機会を設けて、会員の勉強に役立てています。地域の今後を考えていく上で参考にしたいので、開発事業の長期的な展望や環境への取組などを紹介した出前講座もあれば聞いてみたいです。

かわりについて説明しました。

最後に、今後の港の新たな利用展開として、紋別港では旅客船の誘致が進められていること、その成果があつて平成16年度は「日本丸」「飛鳥」などの有名旅客船が寄港したことを紹介しました。

講座時間は約30分。終始落ち着いた雰囲気の中、皆さんは熱心に話しに聞き入っている様子でした。

講座終了後、聴講者の中から「ほかの事業の出前講座も聴きたい」との声が上がり、網走開発建設部の出前講座の一覧表を渡しました。

次の見開きでは「出前講座」の申込方法について紹介します



## 北海道開発局「出前講座」のホームページアドレス及び相談・申込窓口一覧

対象支庁名	開発建設部名	担当窓口	出前講座ホームページアドレス	電話番号 (内線)	FAX番号
石狩・空知 (道庁、空知、釧路支庁)	札幌開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html">http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html</a>	011-611-0111 (2378)	011-611-0799
石狩・空知 (河川、砂防)	石狩川開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.is.hkd.mlit.go.jp/14manabu/03demae/index.html">http://www.is.hkd.mlit.go.jp/14manabu/03demae/index.html</a>	011-621-1541 (3217)	011-631-6018
渡島・檜山	函館開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.hk.hkd.mlit.go.jp/demae/index.html">http://www.hk.hkd.mlit.go.jp/demae/index.html</a>	0138-42-7111 (506)	0138-42-9900
後志 (一部石狩)	小樽開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.ot.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html">http://www.ot.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html</a>	0134-23-5131 (524)	0134-23-9901
上川	旭川開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.as.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html">http://www.as.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html</a>	0166-32-1111 (3459)	0166-32-2179
胆振・日高	室蘭開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/jyoho_sien/demae/index.html">http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/jyoho_sien/demae/index.html</a>	0143-22-9171 (421)	0143-22-1264
釧路・根室	釧路開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html">http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/demae/demae.html</a>	0154-24-7000 (3380)	0154-24-7100
十勝	帯広開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/sougou/ob_demae/demae.html">http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/sougou/ob_demae/demae.html</a>	0155-24-4121 (216)	0155-24-4861
網走	網走開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.ab.hkd.mlit.go.jp/info/demae/index.html">http://www.ab.hkd.mlit.go.jp/info/demae/index.html</a>	0152-44-6171 (505)	0152-44-6232
留萌	留萌開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.rm.hkd.mlit.go.jp/info/demae/index.html">http://www.rm.hkd.mlit.go.jp/info/demae/index.html</a>	0164-42-2311 (215)	0164-43-6308
宗谷	稚内開発建設部	広報官付係	<a href="http://www.wk.hkd.mlit.go.jp/demae/index.html">http://www.wk.hkd.mlit.go.jp/demae/index.html</a>	0162-33-1000 (2402)	0162-33-1040
全道	北海道開発局 (本局)	広報室 広報第3係	<a href="http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/demae/demae.html">http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/demae/demae.html</a>	011-709-2311 (5817)	011-709-8995

## 出前講座Q&A

このほか出前講座についてもっと知りたいことやわからないことがありましたら上記窓口までお問い合わせください

**Q** 講演料はいくらですか?  
**A** 無料です。ただし、講師の旅費や会場の設営、使用料などの経費については、原則として申込者側の負担となります。詳細については、各窓口にご相談ください。

**Q** 出前講座のリストを見たいのですが、インターネットに接続できる環境にありません。どうしたらよいですか?  
**A** リストをファックス又は郵送いたします。各窓口までご連絡ください。

**Q** リストにはないのですが、こういった講座があれば申し込みたいのですが。  
**A** リストにはないのですが、こういった講座があれば申し込みたいのですが。各窓口までお知らせください。対応できる場合があります。また、すぐに応じられない場合でも、今後のメニューづくりの参考といたします。

## 3. 申込方法



### 1 リストから希望する講座を探す

①インターネットに接続したパソコンから、ご覧になりたい地域の開発建設部ホームページ（左ページ参照）にアクセス。  
②出前講座リストをクリックし、講座の内容、地域、対象年齢層、開講期間を見て、希望にあったものを探す。

### 2 出前講座を申し込む

受講したい講座が決まったら申込みを。申込方法は、次の4つです。

**メール** 本局、各開発建設部共通。それぞれのホームページから申し込めます

**FAX 郵送 電話** 申込先により方法が異なりますので、ホームページをご覧になるか、各窓口までお問い合わせください

### 3 日程等の調整

当方の担当者が申込者に連絡し、日程等の調整をします。なお、日程等の調整から出前講座の実施までには、資料作成などの準備のため、1か月程度かかります。

申込みの際には次の事項についてお知らせください。

- 申込者氏名、連絡先 (依頼団体名、担当者氏名、住所、電話番号等)
- 希望講座名
- 講演依頼の趣旨
- 希望月日 (時間帯)
- 講演場所
- 聴講対象者
- 聴講参加予定人数

### 4 出前講座の実施

### 申込みの際の注意事項

講師等の派遣は、原則として公共性・公益性のある団体・機関（市民団体、学校法人、地方公共団体、公益法人等）の主催する講演等で、営利目的でないものが対象です。

申込みは、原則として出前講座の実施希望日の1か月前までにお願ひします。

出前講座の開催時間は、原則として平日の9時から17時の間です。

会場手配、参加者への催しの案内、会場準備、片づけ等は、申込者側でお願いします。

担当職員のスケジュール等によっては、開催日時等のご希望に添えない場合があります。



# 道の駅

## 道北エリアの道の駅

今回取り上げたのは海岸沿いの町・遠別町と、北海道で一番小さな美しい村・音威子府村。まだまだ豊かな自然が残る、のどかなところ。春の訪れが遅い道北ですが、暖かな日には、どうぞ足を伸ばしてお出かけください。小さな春を発見する喜びや、新しい出会いの感動があるかもしれませんよ。



### 富士見

[国道232号 遠別町]

美しい利尻富士を望む、高台のオアシス



別棟の特産品直売所には、地元の名産品がずらり。おみやげに喜ばれそう

海岸線に沿って北海道を縦断する国道232号。海に沈む夕日が絵になる日本海オロロンラインの、留萌市から北へ約95km走ったところに、道の駅「富士見」があります。とんがり帽子のような尖塔がシンボルになっていて、水平線の向こうに秀峰利尻富士を一望できる小高い丘の上に建っています。レストランからはとくに見晴らしが良く、地元の素材を生かしたおいしい料理と絶景が一度に楽しめます。このオススメは、タコ三昧のお弁当「とんがり盆」。ほかにもタコ、ホタテ、有機栽培の長いも・かぼちゃなどがぎっしり詰まった「松花堂弁当」「茶箱弁当」や、「豚の角煮丼」「たこのやわらか煮」なども人気があるとか。もちろん隣接する直売所でも、海産物やもち米、地酒、銘菓、農産物といった特産品が手に入ります。また、裏手にはパークゴルフ場やキャンプ場、散策できる自然の森が広がる富士見ヶ丘公園がありますので、ドライブの途中にでもぜひ立ち寄りみてください。

レストラン「とんがりかん」。1階と2階（団体客用）があり、窓越しに見渡す眺望は抜群



丘の上にちょこんと建つ、とんがり頭の尖塔がある建物。駐車場奥にトイレと、右手に物産直売所がある



丘の上にちょこんと建つ、とんがり頭の尖塔がある建物。駐車場奥にトイレと、右手に物産直売所がある

### おといねっふ

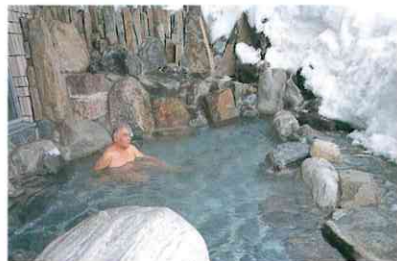
[国道275号 音威子府村]

遠出しても食べたい、名物音威子府そばとラーメン



名物音威子府の黒いそばと、地元客にも人気の高いみそラーメン

彫刻家・故砂澤ビッキ氏が晩年を過したことで知られる音威子府村。その道の駅は、国道40号と275号が交わり、美深から稚内や浜頓別方面へ抜けるときの、絶好の休憩ポイントです。「森と匠（たくみ）の村」と呼ぶにふさわしく、施設内は木の香りもいっぱい、訪れる人をやさしく迎えてくれます。レストハウスではひと休みして、全国的にも有名な音威子府そばを味わいたいところ。一般のそばより黒いのは、挽いたそばがらを練りこんでいるから。風味が豊かでコシがあるのが特徴です。シーズンには1日400~500食も出る看板商品。また、最近は地元客を中心に、ラーメン（しょうゆ・塩・みそ・辛みそ）人気も上々です。道の駅から少し離れたところには、源泉100%の「天塩川温泉」があり、北海道遺産に選定された天塩川や、手つかずの自然を満喫しながら入る露天風呂は格別の趣。体と心がぽかぽかと温まって、旅の疲れをきれいに洗い流してくれることでしょう。



天塩川のせせらぎを聞きながら温泉に浸れば、リラクゼーション効果も倍増

国道40号と275号が交差する、見つけやすい道の駅。そばとラーメンののぼりが目印



国道40号と275号が交差する、見つけやすい道の駅。そばとラーメンののぼりが目印

### 「2005スタンプラリー」スタート！ 実施期間4月16日(土)~11月3日(木)

全駅完全制覇認定は2006年3月31日(金)まで ※ゆっくり全駅完全制覇を目指す方のために、複数年ラリーも開催。

「ひがしかわ 道草館」(4月1日オープン)「サーモンパーク千歳」(6月オープン予定)を合わせて、全道の道の駅は86カ所になります。ドライブの休憩に、レジャーに、個性豊かな道の駅をご利用ください。

詳細は、北海道開発局のホームページからご覧いただけます。 [http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z\\_doro/station/index.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/station/index.html)



忠別ダム建設事業所

開発局と地域を結ぶ  
主役はまさに“ひと”  
地域の人々と一緒に考え、行動する  
その最前線に立つ姿を紹介します

## みんなから親しまれるダム湖に育ってほしい

旭川開発建設部 忠別ダム建設事業所

第2えん堤班 第1えん堤係長 森田 茂雄



地元の皆さんを招いての親子見学会を定期的に行っています

この工事の大きな特徴は、コンクリートダムの骨材やフィルダムの盛立の材料に、ダム湖となる川底の砂や石を利用したこと。山を崩してダムの材料を調達するのが一般的ですが、この地域は大雪山国立公園に接した山岳景観に恵まれた場所なので、自然をなるべく壊さないでコストも削減できるこの方法には大きなメリットがあります。

私は、昨年4月に配属され、ダム建設に携わるのは初めてです。ダム建設は工事の種類が多く、全体の工程を把握するのが大変です。昨年5月から10月にかけて行ったフィルダムの最終部分の盛立では、昼夜交代制で現場に立ち合いました。フィルダムは、シヨベルで川底を掘って、それをふるいにかけて石や砂などに分け、その分けた材料を大型ダンプでゆるやかに積み上げて造っていきます。工事現場では、巨大なシヨベルカーや、タイヤが2m半もある90tダンプなどの大きな機械が行き来します。それだけに、安全面にはとても気を使います。高さが5mもある機械の運転席からは、下に人間がいても死角になって見えなこともあるので、誘導員を配置するなどして細心の注意を払って仕事を進めました。

建設開始から21年目の今年には、工事の最終章。そして来年の春からは実際に水を貯め、様々な安全点検を行う予定です。現場には、様々な安全点検を行う予定です。現場には、案内係が常駐するインフォメーションセンターを設置していますので、ドライブの途中などに気軽に立ち寄りください。



平成14年に完成したコンクリートダム部分(右)と昨年盛立が終了したフィルダム部分(左)の総長は885m、高さは86m。写真奥がダム湖に。右側は放流設備の工事中(平成16年10月)

忠別ダムは、北海道のほぼ真ん中、石狩川との合流点より約31km上流の忠別川に昭和59年度から建設中の多目的ダムです。完成後は、治水・利水はもとより観光面でも期待されています。

旭岳・天人峡温泉方面へ車を走らせると、木々の間から建設中のダムが姿を現します。私もそうでしたが、初めて建設現場を見る人はその規模の大きさに驚くと思いますよ。下流から見て右側がコンクリートダム、左側が比較的弱い地盤でも造れるフィルダムで、忠別ダムは、この二つを合わせてつくる「複合ダム」です。完成すると複合ダムでは日本一の大きくなり、総貯水量は札幌ドームの62杯分にも相当します。洪水調節をはじめ、下流に広がる水田地帯へのかんがい用水と水道水の安定供給に、大きな役割を果たすことが期待されています。





厳冬期、知床半島を横断する国道は、その役目をお休みして、  
原始の森は厳しい自然の中で春を待ちます。

そして海明け。オジロワシが舞う雪と氷に覆われた半島に、  
ゆっくりと野生の息吹が戻ってきます。

そんな、木々の芽吹く前の、知床の素顔にそっと触れたくて、  
開通間近の雪壁の道を歩いてみました。

知床が抱く天地の広さを感じながら、雲の間に羅臼岳、眼下には国後島も。  
峠の風はまだまだ冷たいけれど、クマはそろそろ目覚めるころでしょうか。

知床に、緑の風が薫る日も、近いことでしょう。

※第1回目の開催となった昨年の「雪壁ウォーク」には、全国から約250名の参加がありました。  
今年は4月23日土日に開催される予定です。

ゆき かべ  
知床雪壁ウォークで、  
秘境の春に一番乗り!!



# 大量輸入で輸送費用を削減

## 石狩湾新港多目的国際ターミナル整備事業

札幌圏に最も近い港  
石狩湾新港

石狩湾新港は、日本海を臨む石狩湾沿岸のほぼ中央、札幌市中心部から15kmのところ

に位置しています。札幌圏に最も近い港湾であり、そこで取り扱われる数多くの貨物とともに、地域の暮らしや北海道の産業と密接にかかわっています。

例えば、石狩湾新港に運ばれてくる石油製品は、大部分が札幌圏で消費され、セメントや砂・砂利は、建物の建設や工事に欠かせないコンク

リートの原材料として使用されています。また、港の背後の広大な土地には、水産品や米などを取り扱う大型の冷蔵庫や大規模精米工場が立地しており、食料の流通基地としての役割も担っています。

**原材料・燃料の大量輸入に対応できない現状**

札幌周辺の製紙工場や火力発電所では、原材料・燃料となるチップや石炭のほとんどを海外からの輸入に頼っています。これらの貨物は、大型船で大量に運ばれてくるため、その陸揚げには水深14m級の

深い岸壁が必要になります。しかし、石狩湾新港の岸壁は、現状では最大水深10m。大型船が入港できません。このため、札幌周辺地域から遠い苫小牧港を利用して輸入せざるをえず、その分輸送費用が高くなっています。

**輸送費用の削減に寄与する多目的国際ターミナルを建設**

北海道開発局では、輸送費用を削減するため、石狩湾新港の西地区において、海外から運ばれるチップや石炭等を取り扱う多目的国際ターミナル(※)の建設を進めています。

平成12年に工事を開始し、現在、船を保留する岸壁の工事がほぼ完成。今後は、大型の貨物船が安全に入港できるように、海底を水深14mまで掘り下げる作業(浚渫)や、船から荷揚げした貨物を一時的に保管する用地の整備などを行います。

この多目的国際ターミナルは、平成17年に水深10m、平成18年には水深14mで利用を開始する予定です。完成後は、最大で貨物積載量5万トン級の大型船が入港できるようになります。

その結果、陸上輸送距離が短縮され、また、船舶による海上輸送回数を減らすこともでき、輸送費用を削減することが可能となります。

札幌圏はもとより、北海道の経済、産業及び生活に大きなメリットが生まれることが期待されています。

※多目的国際ターミナル  
多様な外国貿易貨物を取り扱うターミナル

石狩湾新港の上空写真。港の背後には札幌市をはじめとする北海道最大の都市圏が広がっています



### 多目的国際ターミナル整備の様子

(左) 大型の作業船を使って鋼鉄製の管を打ち込み岸壁を整備しました  
(下) 整備中の多目的国際ターミナル上空写真



### 事業の効果

#### 原材料・燃料を札幌圏の工場へ運ぶ費用が大幅に下がります

例えば、北米からチップを輸入している江別市のある製紙工場の場合、石狩湾新港の多目的国際ターミナルを経由すると、苫小牧港を経由する現在の費用の3分の2ですむようになります(※)。

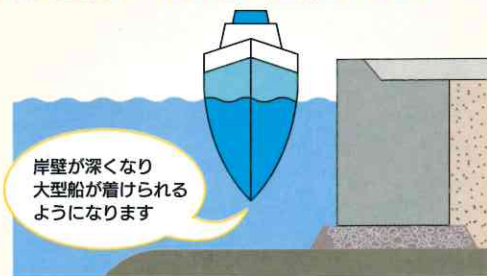
※海上運送費用について、苫小牧港経由では現状通り貨物積載量3万トンの船を、石狩湾新港経由では4万トンの船を使用するものと仮定した場合です



#### 大型船が着岸できるようになります



#### ●多目的国際ターミナルが整備されると







北見市郊外の河川公園。子供の頃、炊事遠足に行った身近な風景も視点を変えれば面白い



スルスル場がるデルタ・カイト。モエレ沼公園で

**Profile プロフィール**

林 範明(はやし のりあき)

1951年北見市生まれ。東京写真専門学校卒業。15年前前にカイトフォトと出会う。北海道をフィールドに撮影を続け、海外や日本で開催されるカイトフォト展に参加。1991年「準太陽賞」受賞。1996年札幌P.Bankギャラリーで個展。同年、世界カイトフォトグラフィー協会「写真芸術賞」受賞。1997年ナショナル・ジオグラフィックフォト・コンテスト「優秀賞」受賞。現在、北海道発カントリースタイルマガジン「イーストサイド」にカイトフォトエッセイを連載中。今年6月に初めての写真集を出版予定。

日本カイトフォトグラフィー協会会員。  
(http://www.interq.or.jp/japan/ikpa/main.html)

撮影をしながらも話しかけてくる人の相手をする事もあって結構忙しい。畑の写真を撮っている時など農家の人と話をするが、その土地の風や天気のことを教えてもらう。何度も通うので、わざわざ冷たい飲み物を持ってきて差し入れてくれる人がいた。海岸でやっていた時、風が弱くてカメラを持ち揚げる事が出来ないのであきらめて後片付けをしようとしていたら、漁師に話しかけられた。「これから風は強くなる。」という。帰るのをやめて待つことにした。1時間以上経ったら、本当に吹きだした十分な強さの風になったので、思い通り撮影出来た事があった。知らない土地へ行ったら、その土地で自然を相手に仕事をしている人と話をすると、風についての情報も豊富なので風向きや風力を聞いておく。次に撮影するときの参考になることが多い。

風写真を続けていて数多く撮影しているが、空想し、心に浮かんだ映像よりも、写っている映像の方が勝っている時がある。それは素直に受け入れる。「撮った」のではなく、撮らせてもらったと考えている。この方法を続けていて思うのは、ほんの数時間でも風に身をまかせると時間を持つことは、自分もこの大きな自然の一部であるという喜びを得られるという事でもある。

この北海道には撮りたい被写体が沢山ある。今年の目標のひとつは、イサム・ノグチが構想し、今夏に完成する札幌モエレ沼公園。天才を相手にとことん撮ってみたいので何度も通うことになると思う。

公園内で大きな風を揚げている男がいたら、それは私かもしれない。

Essay from hokkaido



北国賦

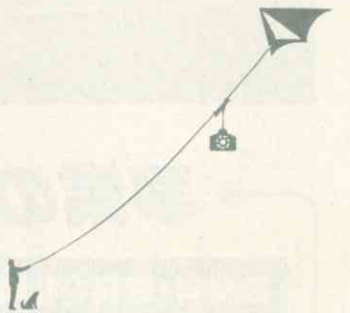
風になる時間

カイトフォトグラファー  
林 範明

Hayashi Noriaki



袋状になっているパラfoil・カイト



北の大地を捜して見つけた海岸線。シベリアのツンドラ地帯を思わせるような独特の風情に心ひかれる

私が使用している風の中には、幅5m・縦2mの二等辺三角形の大きさのものもあり、遠くからでも目立つらしく、わざわざ車で捜しながらやって来る人がいる。自転車や歩いてきて初めは戸惑いながら話しかけてくる子供もいる。風を使つての空撮なので、のんびりしたやり方のようなが、風の変化に絶えず注意しなければならないし、

飛行機やヘリコプターが飛んでいると、乗っている人にはどんな風景が見えているのだろうかという見上げながら想像することがある。飛行機を利用する時は窓側に座る。離陸して上空にいくまでの短い間だけ、車や家が手に取るように見える高度の風景に、ひかれる。鳥の気分になって上空から大地を眺めたいという夢は人類不変のものかもしれない。2003年春にオープンしたJRタワー展望台には、地上160mの眺望を楽しむために多くの人が訪れる。高いところから四方を見回し、足元を覗き込む面白さは、視点の違いによる意外性にあると思う。

ところで、人間自らが鳥にならなくても、その分身在大空にはばたけることを先人たちは知っていた。風である。風が最初に用いられたのは中国らしい。紀元前500年というから、2500年もむかしのことで、世界各地へ、そして日本へは平安時代に伝わってきた。人と空を結びつける道具として、最も古く実用的なものは風だつたといえよう。今日では航空力学的に洗練された新しい風が次々と考案されている。米航空宇宙局(NASA)が開発したデルタ・カイトの影響から立体風や骨組のないすべ布でできた揚力をもつパラシュートのような風も発明されている。ついに風から応用されたパラグライダー・ハンググライダー等、人間が動力なしで空中散歩できるまでに進化している。



大夕張ダム  
建設の様子



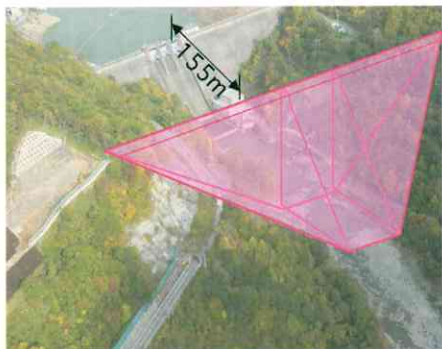
上段左 岩盤に穴を開ける作業  
上段右 定礎石を前に記念撮影  
下段左 岩盤清掃(昭和34年)  
下段右 コンクリート打設が進む  
ダム堤体(昭和35年)

※写真は「大夕張国営かんがい排水  
事業記念誌」(昭和42年)から



北海道開発局が設置された翌年となる昭和27年に調査費が認められ、同29年にダム建設が着工されました。工事では、ダンプトラック、パワーショベルなどの大型機械は貴重な存在で、細かい作業はすべて人力。中でも多くの人手を必要とした作業の一つが、基礎岩盤の仕上げ掘削と清掃です。ダムの建設では、コンクリートを打設する前に、しっかりと削った岩盤が出てくるまで地面を掘り、その後弱くて不要な岩盤を取り除きます(仕上げ掘削)。それから、コンクリートが岩盤にしっかりとくっつくように、表面に残った岩の粉や泥などの汚れを丁寧に洗い流します(岩盤清掃)。様々な施工機械が備わった現在でも、細かい部分は人手が必要となる工程ですが、当時は人海戦術で進められました。作業は果てしなく続き、作業員は清掃水を排除するポンプの騒音にずいぶん悩まされたといえます。一連の工程を終えた時には、苦勞多い仕事をようやくやくなしとげた達成感からか、作業員全員で万歳を叫びました。昭和36年秋、地域の農業関係者の悲願であった大夕張ダ

ムが完成。長年悩まされてきた水不足の問題は解消されることとなりました。完成後は、農林水産省所管事業として北海道開発局がダムを管理し、現在に至っています。大夕張ダムから夕張シューパロダムへ 大夕張ダムの完成から数十年を経て、水をめぐる地域的情勢は大きく変化しました。営農の近代化や札幌市のベツドタウンとしての地域の発展により、農業用水や水道用水の需要が増え、より十分な水量を確保することが求められるようになりました。また、昭和56年に夕張川と千歳川の下流で大規模な氾濫が発生しており、治水という観点からも一刻も早い有効な対策が必要となっています。このような情勢の変化に対応するため、北海道開発局では平成7年、大夕張ダムのすぐ下流に夕張シューパロダムの建設を着工しました。様々な案を検討した結果、既存のダムの再開発により、できるだけ小さな変化で大きな効果を得られることが認められてのことです。新しいダムは、総貯水量で



夕張シューパロダムの建設イメージ。上流側の大夕張ダムは新ダム完成時に役目を終えることとなります。

※土功組合  
現在の土地改良区の前身で、北海道で農業施設の建設や維持管理を共同で行った法人  
参考文献  
「大夕張ダム物語」  
(大夕張ダム研究会編集)

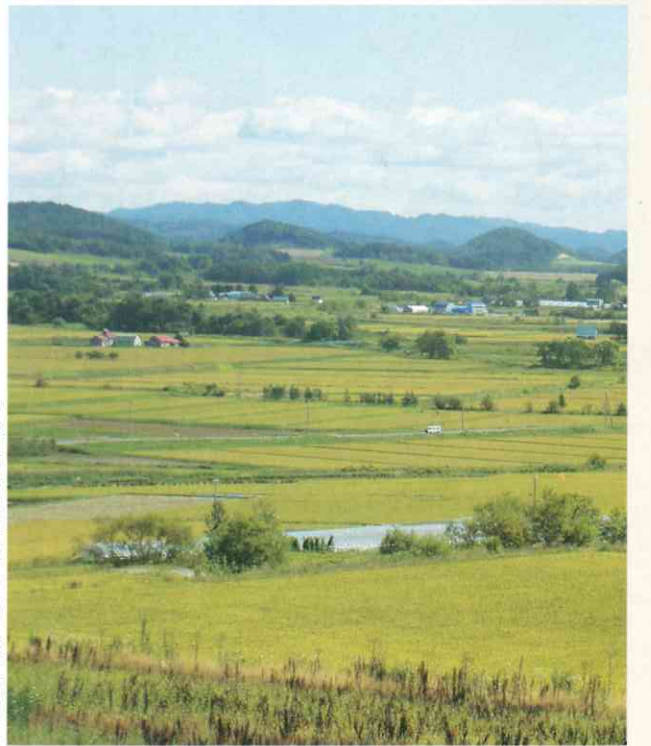
南空知農業の水がめ  
「大夕張ダム」の建設



大夕張ダムは、かんがい用水の確保と水力発電を目的として、昭和36年、石狩川支流夕張川上流の二股地点に建設された利水用のダムです。農業水利を主とするダムとしては、我が国有数の貯水量を誇ります。完成から四十年以上を経た現在も豊かな水をたたえ、夕張川下流域に広がる田園地帯を潤し、地域の農業を支えています。

日の目をみなかった  
戦前のダム計画

空知地方南部の夕張川流域では、明治20年代半ばに稲作が始まり、大正の初期までは夕張川の豊富な水に恵まれた水田経営が行われていました。しかし、やがて奥地の開発による水量の減少や、開田に伴うかんがい用水の需要増加により、次第に水不足に悩まされるようになりました。昭和12年、実測調査により、夕張川上流の二股地点がダムの建設地として最適であるとの結果を得て、その翌年、流域の土功組合(※)は当時の



夕張川下流域に広がる田園風景(美深町)

北海道庁にダム建設を要望しました。しかし、厳しさを増す社会情勢の中、ダム建設は日の目を見ることなく終戦を迎えます。それでも、流域の農民や町村は、一刻も早いかんがい用水の確保を望み、関係機関に対してたゆみなく要請を繰り返しました。

計画から着工  
そして悲願の完成へ

戦後、石狩川流域の総合開発計画が大きく取り上げられ、その一環として大夕張ダムの建設が計画されます。

大夕張ダムの5倍、国内では4番目の規模となります。農業用水と水道用水を確保し、治水面でも大きな役割を果たすことに加え、水辺の動植物が安定して生息できるように下流の川の流れを維持します。完成時には、大夕張ダムからバトンを受け取り、より広い地域に安全で豊かな水の恵みをもたらすことを期待されています。



# ETCシステムのご利用で高速道路の通行料金がお得に

日本道路公団では、ETCシステムにより高速道路通行料金を支払う方々を対象に、割引制度を開始しました。この機会に、ETCのご利用を検討されてみてはいかがでしょうか。

## ETC時間帯割引実施中！ 通勤時間と深夜の料金が安く

### 割引条件

- ① ETCが整備されている入口料金所をETC無線通信により走行
- ② 特定の時間帯（下記参考）に入口料金所又は出口料金所を通過

### 通勤割引



朝 午前6時から9時  
夕 午後5時から8時



### 深夜割引



午前0時から午前4時



※通勤割引は、走行距離が100km以内の場合に限りです。  
また、同日の同時帯に2回以上の割引は受けられません。

## マイレージ割引制度登録で 通行料金5,000円を還元

対象：マイレージ割引制度<sup>(※)</sup>登録者で下記の条件に該当する方  
条件：①平成16年8月10日以降にETC車載器を新規購入・取付・セットアップ

- ② ETC車載器の購入支援、他の料金還元を受けていない
- ③ 平成17年4月1日から8月末（予定）までの間にマイレージ割引制度に登録。ただし、登録台数が全国で100万台に達した時点でキャンペーン終了となります

※ETC利用による通行料金の支払い（後納の場合に限る）に応じてポイントが付与され、貯めたポイントによって料金が還元される制度です。制度の利用には、登録が必要です。

ETCに関する各種情報については  
次のホームページをご覧ください

- 日本道路公団ホームページ <http://www.jhnet.go.jp/>
- ETC総合情報ポータルサイト <http://www.go-etc.jp/>

## ピックアップ Pickup

## 各地で道路の開通続々と

平成17年2月から3月にかけて、北海道開発局が整備を担当する道路が、3か所で開通しました。

2月22日、国道234号早来町でバイパス（同町大町一栄町間1.5km）が開通。道央、道北圏から苫小牧港への物流の円滑化に寄与することが期待されています。

3月26日には、道央圏連絡道路<sup>(※)</sup>の美原バイパスが開通。石狩川に架かる美原大橋の美しい姿が特徴的な道路で、北海道縦断自動車道江別東IC－江別市美原間

の3.9kmをつなぎます。

また、3月27日には、深川留萌自動車道の沼田IC－北竜ひまわりIC間7.1kmが開通。これにより深川西IC－北竜ひまわりIC間の22.7kmが通行できるようになりました。

さらに平成17年度には、美幌バイパスの美幌IC－女満別IC間4.7km、日高自動車道の鶴川IC－門別IC間の11.4km、帯広尾尾自動車道の帯広川西IC－幸福IC間13.0kmの3区間が開通する予定です。

高規格幹線道路凡例  
 開通区間  
 事業区間  
 計画区間

●平成17年2～3月開通  
 ○平成17年度開通予定

3月26日、道央圏連絡道路の美原バイパスが開通（写真は開通前の美原大橋）

3月27日、深川留萌自動車道の沼田IC－北竜ひまわりIC間が開通（写真は開通前のもの）

美幌バイパス  
美幌IC－女満別IC間4.7km

日高自動車道  
鶴川IC－門別IC間11.4km

帯広尾尾自動車道  
帯広川西IC－幸福IC間13.0km

※道央圏連絡道路  
新千歳空港周辺を起点として、小樽市へ至る約80kmの道路です。

## 豊かな自然の恵みを生かした農山漁村の活動を表彰

「わが村は美しく－北海道」第2回コンクールの受賞団体が決まり、平成17年2月25日に表彰式が行われました。

「景観」「地域特産物」「人の交流」の3部門で、金、銀、銅、特別の各賞に選ばれた21件20団体が、北海道開発局長から表彰状と記念品を手渡されました。

このコンクールは、北海道の豊かな自然の恵みを生かして地域の魅力・活力を高める活動を支援し、広く伝えることを目的として、2年ごとに開催しているものです。今回は、前回の126件を大きく上回る197件の応募が、全道の103市町村から寄せられました。

各部門の金賞受賞団体は右のとおりです。

そのほかの受賞団体と各賞の選定理由は、ホームページ（[http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z\\_nogyo/wagamura/index.html](http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_nogyo/wagamura/index.html)）をご覧ください

### 地域特産物部門金賞（該当2件）

標津町  
標津町地域HACCP推進委員会  
漁港、流通、加工場など地域が一体となった品質管理システムの導入により、安全な水産品を提供しています

風連町  
有限会社もち米の里ふうれん特産館  
特産のもち米の性質を生かした「ソフト大福」などの様々な商品を開発・製造し、直売所を開設しています

### 人の交流部門金賞

幌加内町  
幌加内町そば祭り実行委員会  
特産のそばを全国にPRする「そば祭り」の企画、開催を中心に、幅広い交流活動を行っています

### 景観部門金賞…該当無し

※HACCP  
食品の品質管理の手法。材料の入荷から加工、出荷の全行程において、あらかじめ決めた重要管理事項を継続的に監視し、記録します。

## えぞためき

3月になり、どことなく春の陽気が感じられるようになってきた。

春というと、まず選抜高校野球が思い浮かぶ。今大会の北海道代表は、駒大苫小牧高校だ。

昨年の夏は、たくさんの道民と同じく、ナインの澁刺<sup>はつらつ</sup>としたプレーに感動し、優勝した時には大いに喜んだ。今回も、是非日本一になって欲しいものだ。

選抜高校野球が終わると、北海道にもそろそろゴルフの季節がやってくる。来シーズンこそは冬の間レッスンを受け、万全(?)を期したつもりだが、ちょっと心配でもある。

しかし、ここで怖じ気づいてはならない。駒大苫小牧ナインの一員になったつもりで、私も澁刺とゴルフをプレーし、結果に結びつけていきたいと思う。(K)

冬は北海道の交通事故は、死につながる事故です。それも峠に多いですね。そこにこんなサポートがあるなんて思いもよまませんでした。  
これからもアイデアを発揮して、道民の生活をより改善してください。お願いします。  
(札幌市 K・Iさん)

特集「石狩鍋を食べるまで」は、物資の流通や観光と道路というインフラの関係が分かりやすく解説されており、子どもも興味を持って読んでいました。  
(札幌市 T・Nさん)

## ひろば

40号アンケート  
はがきから…

## 北海道開発局の「ホームページ」が新しくなりました

この度、より使いやすいホームページとなるよう、リニューアルを行いました。

気になる災害情報、道路情報をはじめ、北海道開発局の事業と施策に関する各種情報をより見やすく配置しています。

「お知らせ・案内」の中の「オンラインマガジン」から、かいはつグラフもご覧になれます。



新しいトップページ（写真は運用開始前のもの）

◆ アドレス <http://www.hkd.mlit.go.jp/> ◆